

大久野通信 vol.4

地域に飛び込んで



年の瀬迫る時期に、日の出三六会さんは毎年餅つき大会を開催されています。大久野倶楽部では、農業や山野整備の傍ら、こうした地域のイベントにも参加しています。地域に飛び込んでみる、そこで様々なことを感じ取ることが、大久野倶楽部の目指す循環型社会実現には欠かせないと思うからです。会社の枠を超えた活動で得られるものは非常に有意義であり、今後の会社活動を考えるヒントにもなります。地域活動に飛び込んで、大久野倶楽部メンバーは更に気持ちを新たにしました。

INDEX

- ・なぜ餅つきなのか
- ・集団活動の縮図
- ・今後の展望

なぜ餅つきなのか

日の出三六会さんは、荒廃する野山整備の一環で、耕作放棄されている水田の復活を行っています。稲作に興味がある一般メンバーを募り、もち米の田植えから収穫を体験して貰う、その活動のゴールが餅つきなのです。老若男女が一堂に集まり餅をつく、恐らく荒廃する前にはこの地域でも普通に行われていたイベントだったのでしょうか。山野復活は、人々の活動が戻ることで完成するのだろう、そんなことを感じ取った一日でした。



イベント全景

集団活動の縮図

餅を作るだけであれば、いまは餅つき機が便利です。あえて杵と臼を使った伝統的な餅つきをするところに意味があります。三六会の方々よりは相対的に若い大久野倶楽部には、活躍の期待が集まりました。しかし、やってみると余計なところに力が入ってしまい、なかなか上手く行きません。3人で順番に杵を降ろすのですが、息を合わせなければ杵同士がぶつかります。自分勝手に力を出してもだめ、これって仕事や社会生活にも繋がるよなあ、なんてことも感じました。苦労の末に食す餅は、機械では味わえない汗の分、おいしく感じます。便利を求めた結果、失った大切なものがある、大久野倶楽部メンバーは、そんなことを考えながら餅を食しました。



大久野倶楽部メンバーが餅つきをしている様子



汗の結果で入手した餅

今後の展望

地球温暖化の原因物質として二酸化炭素が良く挙げられますが、メタンも温室効果ガスの一種であることはご存じでしょうか。単位当たりの温室効果は、二酸化炭素のなんと20倍以上です。地球温暖化防止では、二酸化炭素に注目が集まりますが、メタンガス抑制も重要です。なんと、日本における最大のメタンガス排出源は水田なのです。週末農家の大久野倶楽部ですが、平日は「腐植物質」の研究を行っています。研究の成果で、「腐植物質」が自然界の浄化作用を促していることが判ってきました。その内容は、別途「地球を救う腐植物質」でシリーズご紹介いたします。

大久野倶楽部では、「メタン排出を抑制しつつ旨い米を作る」をテーマに、24年は稲作にもチャレンジします。